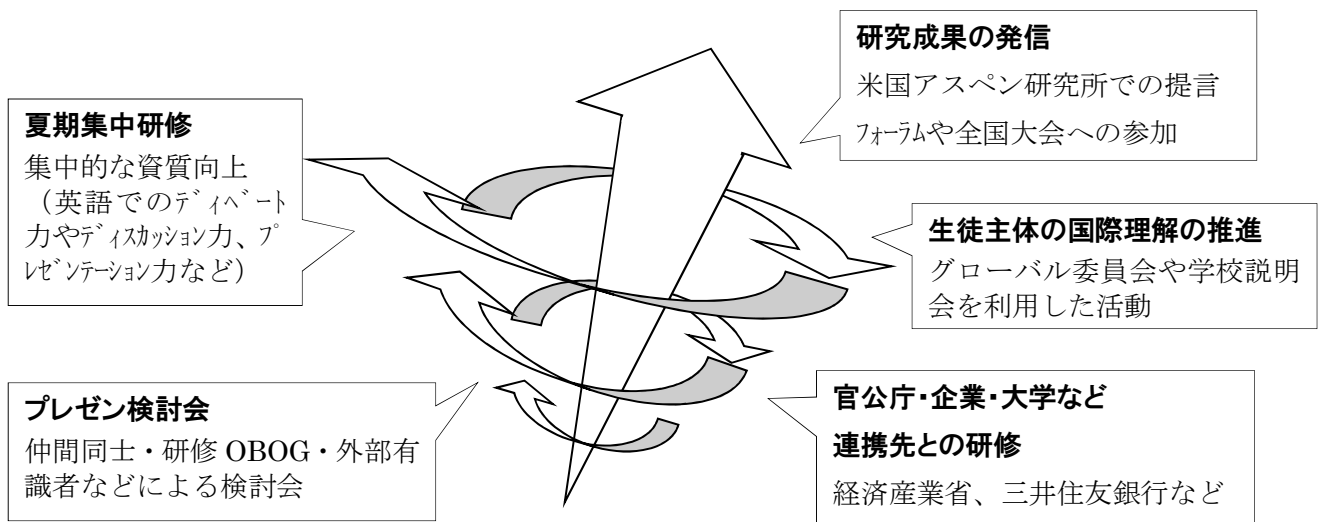




➡ 令和3年度「グローバルリーダー育成研修」、「ニュージーランド研修」が始まりました！！

令和3年度の「グローバルリーダー育成研修」、「ニュージーランド研修」が始まりました。「グローバルリーダー育成研修」は例年、グローバルリーダー育成海外派遣研修「ボストン・ニューヨーク研修」と称して海外研修を含んだプログラムで実施しています。今年度はコロナ禍の影響で海外派遣研修は中止となっていますが、「海外研修」の代わりに「夏期集中研修」を盛り込んだ内容で研修を実施していきます。今年度も「食料問題解決に向けた提言」を作成します。10月に米国アスペン研修所とオンラインで結び、プレゼンテーションします。また、「ニュージーランド姉妹校交流海外派遣」も実際に現地を訪問することはできませんが、「ニュージーランド研修」として、日本とニュージーランドの文化や自然環境等をテーマにした探究活動を行っていきます。10月に研修の成果をニュージーランド大使館で発表します。研修の成果をGlobal Journalを通してお知らせしますので、ぜひご確認ください。

【グローバルリーダー育成研修の概要】スパイラルスキルアップのイメージ



➡ 現在案内中の各種イベント

○「Tokyo Leading Academy」 東京都教育委員会・東京大学先端科学技術研究センター共催

東京大学先端科学技術研究センターの研究者等を講師に迎え、5回連続の特別講座を開催。

すでに締切りとなっていますが、日比谷高校からも4名の生徒が参加します！

○「第4回東京都立大学都立高校生のための先端研究フォーラム」

『歴史学の最先端』 東京都教育委員会・東京都立大学共催

日比谷高校を会場に、オンラインで結んで開催します。(6月16日)

○WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業プログラム

「関西学院世界市民明石塾」 オンライン実施(全3回) 関西学院大学主催、文部科学省後援

6月9日(水) 締切り ※様々な書類の準備が必要です。

(詳しくは Teams や校内掲示板をご確認ください)

➡ グローバルリーダー育成研修「世界の農業の課題」

本校の地理を担当する先生より、研究テーマを決めるにあたり、日本や世界の農業の現状についてご講義いただいた。グローバルリーダー育成研修では、例年「食料問題解決に向けた提言」を作成している。日本の首都東京の、都心のど真ん中に位置する我が校が、敢えて「農業」をテーマとする理由。それは、我が国にとって本当に重要なはずの「食の安全保障」の問題を、都市生活者として、傍観者のようにこのままやり過ごしていいのか、という問題意識からである。日本は世界の中でも温暖多雨で農業に適した環境であり、極めて肥沃な土壌に恵まれた豊かな大地をもつ。その上、農耕具や化学肥料の生産、品種改良など農業に関わる高い技術も有する。日本はもっと農業を成長産業として捉え、どのような取り組みが可能か考えるべきではないか。そして、世界各地の抱える食の問題と関わっていくべきではないだろうか。

はじめに、国際情勢について伺った。不安定化する世界の背景にあるのは行き過ぎたグローバル化である。グローバル化により、国同士の競争が激化し、経済格差がますます広がった。その格差は異常なまでに広がり、貧しい国の人々は裕福な国へ移民や難民として流れるようになった。各国の自国中心主義への標榜等もあり、国際化は冷戦後 30 年経った今も成し遂げられていない。また、地球環境問題は年々深刻さを増している。ただ、首脳会談等において環境問題が議題として取り上げられることにより、各国の環境問題改善への動きは僅かではあるが高まっている。今回の新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大は、世界が抱える課題をより浮き彫りにする形となっている。

一方日本国内では、食料自給率が 39%、特に飼料作物自給率は 0%と低く、今回の新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、災害等により輸入が困難になった際の国内での食料確保への不安が高まった。農業では従業者の高齢化や後継者の不足に加え、農業協同組合による強い、独自のアイディアで活動する生産者の制御、弱い生産者への補助により、多くの農家は補助なしでの維持が厳しくなっているのが現状である。第二次産業は他国の影響の拡大により衰退しており、オリンピック等により国内経済の改善を試みていたが、新型コロナウイルス感染症により実現は厳しくなってしまった。今後は、地方で活躍する優秀な働き手を育成するなど、改善に努める必要があると感じた。

今後、日本の農業を活性化していくためには、コストが高くとも作物を生産し、強みとなる産業を作っていくことが必要である。また、日本人がもつ「一年中同じ作物を食べられること」や「お店には必ず食品があることは当たり前」という考えを変えていく必要があると感じた。今カボチャは一年中日本で食べることができるが、その背景には冬にはニュージーランドから、春先はメキシコから、と海外からの輸入がある。フードロスの量も多く、環境保全のためにも日本人の食に対する意識を変えなくては国内での食料問題は改善しないだろう。

本講義を通して、日本や世界の現状の異常性を実感した。今まであまり感じてこなかったこの異常性に目を向け、深く考え、テーマを考えていくことが大切だと強く思った。

(生徒が作成したレポートを一部訂正)